



前を向け。
未来たち。

追いかけて来い。追い抜いて行け。
若い君たちの可能性こそが未来だ。



スポーツくじ

toto
FOR ALL SPORTS OF JAPAN

BIG
くじ

スポーツは育てることができる。



スポーツくじ(toto・BIG)の収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。

www.toto-growing.com ©19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター



前を向け。
未来たち。

追いかけて来い。追い抜いて行け。
若い君たちの可能性こそが未来だ。



スポーツくじ

toto
FOR ALL SPORTS OF JAPAN

BIG
くじ

スポーツは育てることができる。



スポーツくじ(toto・BIG)の収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。

www.toto-growing.com ©19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

陸上競技研究紀要 第12巻

編集後記

2016年度「陸上競技研究紀要」第12巻をお届けします。投稿論文としては、資料3篇ではあったものの、いずれも陸上競技の指導現場を反映した実践的な事例研究であり、是非ご一読をお勧めします。また例年どおり、科学委員会から「日本陸連科学委員会研究報告 第15巻(2016)陸上競技の医科学サポート研究」14編、医事委員会から「エキサイティング・メディカル・レポート」10編の論文が報告されました。とりわけ本年度はリオデジャネイロ・オリンピック開催年にあたり、オリンピック代表選手への医科学サポートに関する充実したレポートがまとめられています。来る2020年東京オリンピックへ向けても、貴重な情報となるでしょう。特集企画としては、「若い競技者の育成モデルをめぐる世界の動向」の論文4篇を収録しました。近年、スポーツ科学研究の中でもとくに注目されている研究テーマの一つとして「若い競技者の育成」があり、本年度の特集企画に取り上げました。この課題は、今後も継続して掲載して行きたいと考えています。

さて、著者も特集号のなかでカナダ陸連のLTADモデルについて執筆を担当したので、蛇足ながら一言付け加えます。LTADとは何か？ 試しに、インターネット検索で”LTAD”と叩いてみて下さい。たちどころに、おびただしい数の「長期競技者育成モデル」がヒットします。カナダのものに注目すれば、ほぼどの競技団体もこのLTADを採用していることがわかり、その徹底ぶりに驚かされます。カナダでのLTAD普及の経緯を追ってみると、カナダスポーツ省が白紙の状態から作業に取りかかったのが2002年であり、2005年には早くもLTADモデルのバイブルとなるガイドブックを完成させました。LTADとは何かがよくわかり、拠り所となる、確立したドキュメントをすでにその時点で完成させたのです。そこから2～3年後、ほぼ全競技団体がLTADを採用し、競技特性に合わせてLTADモデルをアレンジし、インターネット上に公開しています。同時期、我が国でも期せずしてスポーツ振興基本計画(2000年)を策定し、各競技団体に競技者育成プログラムの作成を促しましたが、その結果はカナダとはかなり趣が異なります。カナダほどの広大な国で、どうしてそのように迅速な普及が可能であったのか不思議に思えます。しかし逆に広い国だからこそ、全ての人が意思の疎通、情報の伝達には一層の配慮をする、とも考えられないでしょうか。情報源となるドキュメントへの仮託、信頼が厚く、それ故、伝達も速いのではないかと想像されるわけです。そう考えると、スポーツ政策と国土の広さとは、良くも悪くも、案外深い関係があるのかも知れません。タレント発掘にも同じようなことが言えます。アメリカ、中国、ロシアといった大国では、もともと豊富な人材を宿し、したがって大国の眼目はグラスルーツの充実であり、タレント発掘という発想は馴染みません。一方、国土の狭い旧東欧諸国や広い国でも人口の少ないオーストラリアなどでは、限られたタレントプールだからこそ、その中から優れた人材を見出そうとする「タレント発掘」というシステムを開発したのだ、とよく言われます。

本特集では、若い競技者の育成に関して幅広い議論を紹介していますが、国の広さまでは手が回っていないようです。ともあれ、それらの議論の範疇におさまりきらない国土をはじめ、歴史、文化、経済などの要素も含めた各国のユニークな複雑系の中で若い競技者が育っていくのだということを改めて得心した次第です。

2017年3月1日

文責 伊藤静夫

【陸上競技研究紀要第12巻 編集委員会】

伊藤静夫(編集委員長)、榎本靖士(編集副委員長)、
高松潤二、森丘保典、青山清英、高橋義雄、桜井智野風、安井年文、眞鍋芳明

【日本陸上競技連盟・事務局】

三宅 聡、畔蒜洋平、粳田竜之助、荒真嬉子、山口和也

「陸上競技研究紀要」第12巻

2017年3月1日発行

発行人 尾縣 貢

発行所 公益財団法人日本陸上競技連盟

〒163-0717 東京都新宿区西新宿2-7-1 小田急第一生命ビル17階

TEL : 03-5321-6580
